

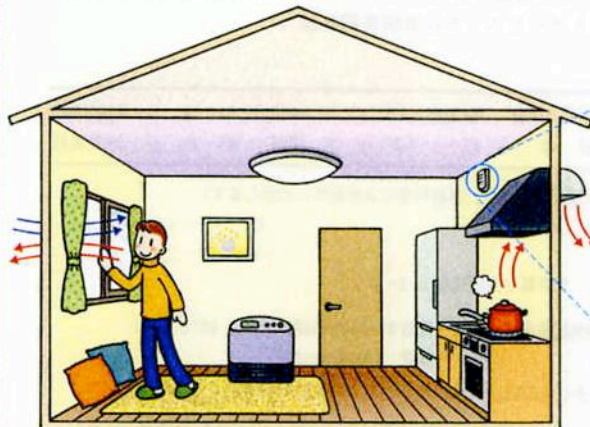
資料 完全燃焼と不完全燃焼

木炭やガソリン、都市ガス、LPガス(液化石油ガス)などの燃料は、酸素が十分にある条件で燃やせば、ふくまれている炭素は酸化されて二酸化炭素(CO₂)になる(完全燃焼)。しかし、酸素が足りない条件で燃えると、炭素の一部は二酸化炭素まで酸化されず、一酸化炭素(CO)になる(不完全燃焼)。

一酸化炭素は無色・無臭の気体で、呼吸によって体内に入ると、血液中のヘモグロ

ビンが酸素を運びにくくなるので有毒である。同じように無色の気体である都市ガスやLPガスの場合、ガスもれに気がつきやすいようににおいがつけられているが、一酸化炭素の場合は無臭なので、その発生に気づきにくい。

閉めきった部屋でガス器具などを使うと、酸素が少なくなって不完全燃焼を起こしやすいため、換気には注意しなければいけない。



不完全燃焼を知らせる警報器

ガス器具や石油ストーブなどを使うときは、換気に気をつけよう。

